

座長／早稲田大学スポーツ科学学術院／鳥居 俊  
／慶友整形外科病院骨関節疾患センター／岩本 潤

このシンポジウムは陸上競技の長距離走種目を中心に多くの競技で発生する下肢疲労骨折の治療や予防の変遷と今後について，発表・討論してもらう企画であった。最初に座長より日本陸上競技連盟の調査などを題材に下肢疲労骨折について概観的に解説し，本シンポジウムの趣旨と演者を紹介した。

第1演者として箱根駅伝選手の調査を中心に疲労骨折の発生部位，発生頻度，復帰までの期間など疫学データを初雁先生に発表いただいた。次いで，治療法として，現在治癒促進のために用いられているLIPUSについて第2演者の根井先生に発表していただいた。さらに，高気圧酸素療法について第3演者の大原先生に発表していただいた。第3の論点として疲労骨折予防や修復状態のモニタリング，選手の健康管理について，骨代謝マーカーや他の血液マーカーに関して，第4演者の藤田先生，第5演者の伊藤先生に発表していただいた。

各演者より最新のデータを用いた発表をいただいたのち，壇上に上がっていただき総合討論を開始した。最初のテーマとして疲労骨折が発生する時期やタイミング，発生のハイリスク者を予測できるか，について，疫学的視点から初雁先生，血液マーカーの視点から藤田先生，伊藤先生に回答をいただいた。2番目のテーマとして疲労骨折の治療方法とその効果，治療を行うタイミング，治療期間短縮効果について，根井先生，大原先生，また骨代謝マーカーの視点から藤田先生に回答をいただいた。最後のテーマは疲労骨折をせずに最高のパフォーマンスを発揮できるようにするための予防方法について全員に回答をいただいた。

総合討論のあと，岩本先生より総括発言をいただき，シンポジウムを閉じた。